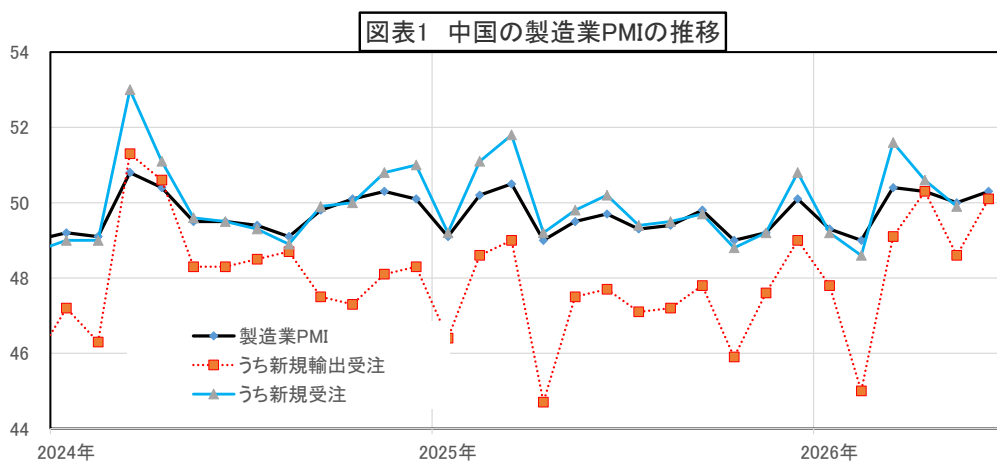


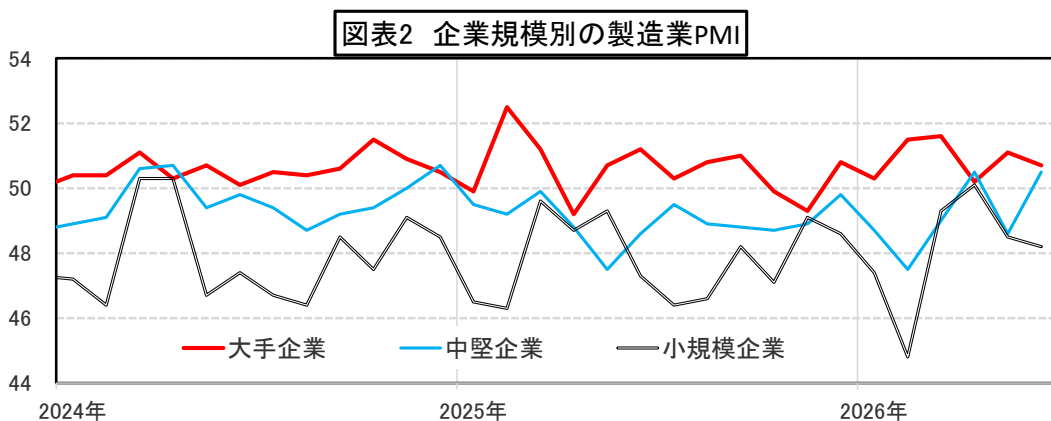
## (中国)6月の企業マインドは製造業・非製造業ともに小幅ながら改善

2026年6月の企業マインドは、製造業・非製造業ともに小幅ながら改善した。6月の製造業PMI（購買担当者景気指数）は50.3と、5月から0.3ポイント上昇、小幅ながら景況感判断の分岐点である50を上回った（図表1）。これは過去3年の平均値（49.4）を上回っており、景況感に底打ちの兆しがみられる。



（資料）中国国家统计局、Windより作成、直近は26年6月。

小幅改善の背景には、内需拡大策の加速による国内需要の持ち直しに加え、米とイランの停戦合意を受けた中東情勢の緊張緩和も中国の輸出環境の改善に一定程度寄与したことが挙げられる。実際、新規受注と新規輸出受注はそれぞれ51.4、50.1、ともに前月から上昇し、50を回復した。また、生産も51.4と4か月連続で50超を維持した。

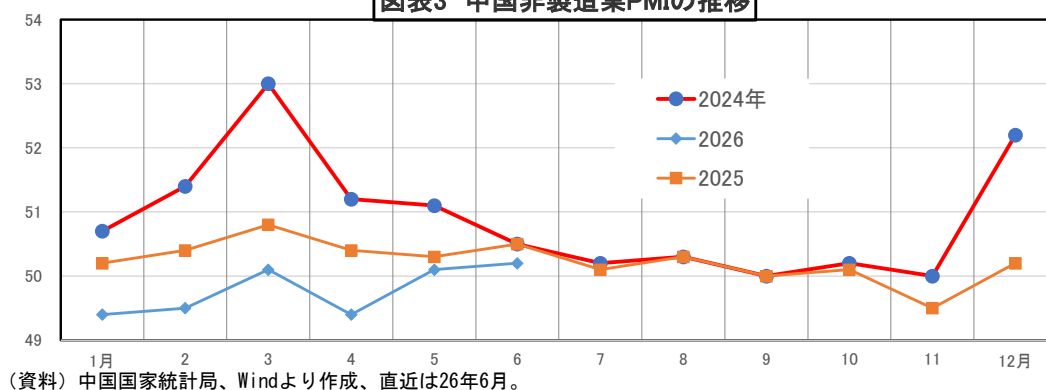


（資料）中国国家统计局、Windより作成、直近は26年6月。

企業規模別にみると、大手企業は50.7と5月から小幅に低下したものの、50超を維持している。また、中堅企業は輸出の底堅さと内需拡大策の効果を受け、50.5と前月から1.9ポイント上昇し、大きく改善した。一方、小規模企業はコスト上昇や需要不足で48.2へ低下し、経営環境の悪化と資金繰りの困難が続いているとみられる（図表2）。

価格動向をみると、主要原材料の購買価格は 54.2 と依然高水準にあるものの、5 月から 6.3 ポイント低下した。製品出荷価格は 48.2 と 5 月から 3.7 ポイントの下落となり、6 か月ぶりに 50 を下回った。これらを踏まえると、川上では価格の調整が進む一方、川下では需要不足や価格交渉力の弱さにより販売価格が下落し、小規模企業の収益への圧力が強まる可能性が高いと考えられる。

図表3 中国非製造業PMIの推移



また、非製造業 PMI も 50.2 と、5 月から 0.1 ポイント上昇し、改善を示した(図表 3)。近年の平均値を下回り、改善幅は限定的である。業種別にみると、サービス業は 50.4 と小幅な改善にとどまり、通信・IT サービス、金融・保険などが高い景況感を維持する一方、交通運輸は弱含んだ。建設業は新規住宅建設の低迷が続くなか 49.0 と前月からやや改善したものの、依然として 50 を下回っている。ただし、地方政府の専項債発行(公益プロジェクト向けの地方債)は 6 月に 5,700 億元と大幅に増加し、インフラ整備向け投資の下支え効果が出始めているとみられ、土木工事は 55.0 へ大きく上昇した。

総じてみると、6 月の PMI は、内外需の持ち直しを背景に企業マインドの小幅な改善を示した。一方で、小規模企業の景況感低迷や価格下落による企業収益圧迫、建設業の低迷など、企業マインド改善の持続性には不確実性がなお残る。2026 年 4~6 月期の GDP 成長率は前年比 4.5% 程度と、1~3 月期(同 5.0%)から減速する見通しである。政府は、既存政策の着実な推進に加え、政策金融機関による政策融資の実施強化などを進めており、今月の政治局会議で下半期の経済運営方針と追加政策が焦点となる。